きらり☆栗山人

みなさと栗山で輝く町民をクローズアップ

このコーナーは、さまざまな活動で活躍している町民にスポットを当てて紹介します。

民謡の全国大会で準優勝
濱谷（はまや） 瑞希（みずき）さん

生まれた時から

「生まれた時から、私の周りには民謡がありました」と話す濱谷瑞希さん（16歳）。

祖母、母、姉の影響もあり、5歳の時に夕張市の松川観絃師（北海道民謡連盟最高師範）に師事。6歳（小学1年生）より、由仁町の石川一男師（日本郷土民謡協会名誉教授・北海道民謡連盟最高師範）に師事し、練習に励んでいます。

音楽に言葉の壁はない

濱谷さんの歌声は、民謡を始めた時から多くの人々を魅了し、5歳で「第14回北海盆唄全国大会」幼年の部（小学4年生以下）で優勝したのを皮切りに、先月7日に東京都で開かれた「第55回郷土民謡民舞青少年みんよう全国大会」ジュニアの部で準優勝に輝くなど、数々の大会で優秀な成績を収めています。

また、9歳（小学4年生）の時には、ロシア・エルミタージュ国際音楽交流祭に参加し「民謡」を披露。10歳（小学5年生）の時には、姉の珠実（たまみ）さんと民謡仲間の小寺聖夏（せいな）さんと少女民謡ユニット「み・せ・た」を結成するなど、民謡の楽しさを知ってもらおうと活動しています。

民謡をやっていて良かったことを聞くと「日本の伝統文化に触れることができたことです」と話してくれました。そして、「ロシアで民謡を披露した時、言葉が通じなくてもたくさんの手拍子や拍手をもらい、あらためて民謡の持つ大きな力を実感するとともに、音楽には言葉の壁はないんだということを強く感じました」と語ってくれました。

次世代へとつなぐ担い手として

濱谷さんに今後の抱負を聞くと「日本の伝統文化である『民謡』を世界中に広げていきたいです。そして、多くの人たちとの心と心をつないでくれる『民謡』を次世代へとつなぐ担い手として誇りを持って大切に唄い続けます」と話してくれました。

【プロフィール】
平成12年8月3日生まれ。朝日4丁目在住、岩見沢西高等学校（1年生）に在学中。かるたにも熱心で、昨年の北海道子どもかるた大会で準優勝。現在は、岩見沢梅ヶ枝歌留多倶楽部に所属。

VOL.3 新しい力で栗山を元気に！ 地域おこし協力隊です

栗山町の魅力を知ってほしい

皆さん、こんにちは。今月は、山口尚久が担当させていただきます。

私は、兵庫県出身の43歳。地域おこし協力隊では、最年長です。

趣味は、読書や海外ドラマ鑑賞など、主にインドアでしたが、栗山町の恵まれた環境の中、ゴルフ、スキー、温泉巡りやキャンプなど、アウトドアにも再挑戦したいと思っています。

若者定住推進室で移住促進に関わる活動を行っており、「くりやま暮らし体験事業」を主に担当しています。

栗山町への移住や二地域居住、シーズンステイを検討されている方を対象に、家具・電化製品などを完備した体験施設を用意し、ちょっと暮らしを体験していただく事業で、体験者の受け入れから退出までのお世話、町内案内などを通して、栗山町の魅力を知っていただく活動を行っています。

私自身も町民の皆さんと交流し、もっと栗山町の魅力を知りたいと思っています。

皆さん、よろしくお願いします。

No.3 こんにちは！ 町史編さん室です

図書館―そこは「本と人との出会い」の空間

左の写真をご覧ください。これは、三勝さんの隣にあった「古田書店」で、町民の情報源となっていました。

三勝さんの隣にあった「古田書店」

店主の古田謙二さんは大正2年、栗山小学校高等科の能勢實先生の教室を卒業しました。（当時の校長は有松準太郎さん）

古田謙二さんは、卒業後、外国船の船乗りになったりして、苦学して検定試験を受けて教員免許状を取得します。

戦争が最も厳しい昭和20年6月、余市高等女学校の教頭時、軍事教練に反対して辞職。同年7月、北海道拓殖銀行余市支店に入社。昭和24年には、札幌拓殖銀行企画室に勤務し、「北海道における出版業の調査」（昭和25年）経済レポートとして発表しました。

古田謙二さんの5番目の息子、古田良三さんは、現在東京で印刷業を経営。平成21年「緋衣（ひごろも）とともに―古田謙二（冬草）遺稿集―」を出版。町図書館にも寄贈されています。

図書館は、水道でいえば貯水池のようなもので、たくさんの情報が集積されています。そして、「本と人との出会い」を最も大切にする公共施設です。

栗山町図書館

利用者に栗山町の情報をきめ細かく町民に還流してくれます。町民の皆さんもぜひご利用していただき、身近な愛される町図書館を誇りにしたいものです。（卜部）

【問い合わせ】
栗山町史編さん室
☎㊻7820